

ねらい

人間は精神的なものから物質的なものまで、あらゆる形でそれぞれに支えあって生きており、この相互依存の関係は、お互いに良くも悪くもさまざまに影響を及ぼし合っている。

このことについて、身近な食材を通して私たちが世界とのつながりの中に生きていることを認識し、我が国の食糧輸入が国内はもちろん相手国にもさまざまな影響を与えているということを知る。そして、そこから見えてくる課題の解決のためには、自分レベルと地球規模の双方からのアプローチが必要であることを気づき、一人ひとりが自分のこととして問題意識を持って、行動できるようになってほしい。

学習者の目標

- 知識** ●日本の食材がどこから来て、地球規模でどんな旅をしているのかを知る。
- 技能** ●食糧の輸出入によって引き起こされている問題は何かを見つけだし、その流通を調べることによって問題を分析することができる。
●自分が気づいたり、知ったり、発見したりしたことを表現する方法を身につける。
- 態度** ●食を通して私たちは世界と密接な関係にあることを意識しながら、毎日の生活をふりかえることができる。
●自分たちにできることは何かを地球規模の視野に立って考え、家族や地域に対して具体的な提案をしたり、実行したり行動することができる。

対 象 小学校高学年以上

学習計画

総時間
12
時間

	内 容	時間	主 な 手 法
1	好きなメニューにはどんな食材が入っているのかな?	1	仲間づくり
2	食材のふるさとさがし	2	インターネット、新聞、図書
3	食材の旅マップづくり	2	地図づくり
4	ナッツ入りチョコレートゲーム	2	シミュレーション
5	食材の旅がもたらす影響は?	2	ブレインストーミング
6	日本の食卓へのメッセージ発信	3	仲間からのアドバイス

学習案

1 好きなメニューにはどんな食材が入っているのかな? (1時間) (主な手法: 仲間づくり)

教師の準備

外国との依存関係がはっきりわかるような食材を使って、子供たちが好みそうなメニュー（例えば、カレーライス、焼き肉、エビフライ、ハンバーガー、スパゲティ、ざるそばなど）の写真をグループの数だけ準備する。写真をそれぞれ5～6片に切ったものを全部まとめて一つの袋に入れておく。（何人のグループを作るかで、紙片の数が決まる。）

1. 写真片を一人1枚ずつ取って、お互いに合わせながら一枚の写真を完成させる活動を通じて、各メニューグループに分かれる。（→「仲間づくり」P63）
2. 模造紙の中央に完成したメニューの写真を貼り、どんな材料（食材）が使われているかをその周りに書き出す。

例

●カレーライス（肉、タマネギ、にんじん、ジャガイモ、カレー粉、スパイス類、砂糖、塩、小麦粉など）。

3. 各グループで取り組む食材を一つ選ぶ。（できれば地元と関係あるもの、例えば、そば：山都町、トマト：南郷村、長ネギ：須賀川・いわき、しいたけ：霊山、牛肉：飯舘などを選ぶと、地元でも作っているのに輸入の方が安かったりという不思議な現象に触れることができる。）
4. まとめたものをお互いに見せ合い、決まった食材を発表しあう。（同じものがある時は、話し合いで各グループのテーマが重ならないようにする。）

2 食材のふるさとさがし (2時間) (主な手法: インターネット、新聞、図書)

1. 前時間で決めた食材の国内外の生産地を地理資料やインターネットなどを参考に調べる。日本の自給率と輸入先、輸入量についても調べる。（→「新聞」P59 「インターネット」P61）

参考資料

地図帳

日本国勢図会（国勢社発行）

日本のすがた（国勢社発行）

農林水産省のホームページ……<http://www.kanbou.maff.go.jp/www/anpo/index.htm>

2. スーパーなどで、実際にどこから来ているのか、価格は日本のものと比べてどうかを調べる（家の人と一緒に買い物に行って調べるように宿題にするとよい）。
3. 調べて分かったことを表にまとめて、お互いに発表する。

3 食材の旅マップづくり (2時間) (主な手法: 地図づくり)

1. 食材が生産されてから日本の食卓に上るまでの流れを、世界白地図に矢印やイラスト、写真、グラフの張り付けなど工夫しながら書き込む。

学習支援のヒント

具体的な例として、そばや福島県で消費量の多い納豆の原料の大豆などをモデルとして教師が提示してもよい。

2. 同様に、食材の輸入先（国や地域）への日本からの輸出品目（食材に限らず）を調べて、その地図に書き込む。
3. 完成された地図を壁に貼りだし、クラス全体で見せ合う。
4. 各グループの地図を、一枚の世界地図にまとめる。

発展

メニューグループで決めた食材の輸入先の上位3を調べ、その国・地域へ日本から輸出しているもの（食材に限らず）の上位3を調べる。それらの輸出輸入の品目を世界地図上に書き込む。

4 ナッツ入りチョコレートゲーム (2時間) (主な手法：シミュレーション)

(『INTERNATIONAL ERIC Newsletter No.2 (P4) 国際理解教育センター発行』より引用)

1. (市販のナッツ入りチョコレートを食べながら)、ナッツ入りチョコレートの原材料によって7グループに分かれる。

ガーナグループ ……………カカオ

ブラジルグループ ……………ナッツ

フィリピングループ ……………砂糖

南太平洋の島々グループ ……………ココナツ

アメリカ合衆国グループ ……………コーンシロップ

カナダグループ ……………包装紙

日本グループ ……………製品を作り、売り、買う

2. 課題によって、それぞれの国でどのような影響を受けるのかを考える。

課題例

- 「アメリカでは日照り続きにより、トウモロコシが不作となり、コーンシロップが入手しにくくなった。」

この課題の場合、アメリカ合衆国（シロップの値段が上がる。シロップ工場の労働者が解雇される。労働者家族は路頭に迷うなど）、日本（他のシロップ生産国を探して緊急輸入する。チョコレートの値段を上げる。子供たちは買えなくなるなど）、フィリピン（日本からの砂糖の輸入量が減らされるなど。）に影響が考えられる。

- 「このブランドのチョコレートは人気があり、バレンタインデーに向けて需要が急上昇した。」
- 「台風がココナツプランテーションを襲撃した。」
- 「チョコレート工場の労働者が、給料引き上げを求めてストライキに入った。」

3. グループごとに考えたさまざまな影響を、紙に書き出す。

4. 模造紙の真ん中に課題を書き、放射状に各グループで書き出した影響の紙を貼る。

5. その模造紙を見て、影響の紙同士で関係するものは線で結ぶ。

6. 別の課題で同様の活動をする。

7. これらの活動を通して、気づいたこと、分かったこと、考えたこと、発見したことなどを話し合う。

5 食材の旅がもたらす影響は？ (2時間) (主な手法：ブレインストーミング)

1. 食糧輸入によって引き起こされる出来事について、これまでの学習を通して、気づいたこと、知ったこと、考えたこと、発見したことなどをブレインストーミングの方法で各自1枚のカードに一つずつ書く。(→「ブレインストーミング」P63)

2. それぞれのカードを、「○○にとって好い影響」、「○○にとって悪い影響」、「どちらとも言えない」の3グループに分ける。

3. 一枚の模造紙に、3グループに分けた結果を貼り、それぞれの理由を書き込む。

4. できあがったものを各グループごとに発表し、互いに意見を述べ合う。

5. 他のグループの発表を聞いたり、仲間からの意見を参考に、自分たちの分類を再検討する。

6. 2. の結果の中からひとつ選んで、その実例を新聞やインターネット等で探して、自分たちの出した結果を検証する。

6 日本の食卓へのメッセージ発信! (3時間) (主な手法：仲間からのアドバイス)

1. これまでの学習の中で学んだことを誰に伝えたいのか、メッセージ発信の相手を決める。(自分自身、首相、知事、市長、消費者、生産者、製造業者、販売業者、輸入業者・・・)
2. どんなことを伝えたいか、伝えたいメッセージを考える。
3. どんな方法で伝えたいか、手紙やポスター、標語や新聞、詩など自分たちの得意な方法を選択する。
4. 伝えたいメッセージを形にする。
5. できたものをお互いに見せ合い、意見や感想などを述べ合う。仲間からのアドバイスをもとにもう一度練り直す。これを何度か繰り返しながら、よりよいものに仕上げる。
6. 伝えたい相手にメッセージを届ける。

例

- 給食センターに、メニューの食材の原産地を表示してもらうように手紙を書く。
 - 安全でおいしいものを作ってくれるよう、生産者へ自分たちで作成したチラシを配布してくれるよう農協に頼む。
 - 「日本の食卓への私たちの提言」として、新聞に投稿する。
 - 劇やミュージカルにして学習発表会などで発表する。
7. 伝えた相手からフィードバックをもらう。
 8. フィードバックの内容を随時ホームルームの時間等で発表する。



フード・ファースト・カリキュラム (国際理解教育センター発行)
INTERNATIONAL ERIC Newsletter No.2 (国際理解教育センター発行)

